

中高一貫教育の成果

※この文章は教育行政に携わる職員の見解ではなく、一県民の感想であることを申し上げます。

4年間、併設型中高一貫教育校で勤務した。

子育ての経験上、小学校6年間は、知的成長より身体的成長をより感じたが、中学校・高等学校の6年間は知的成長を感じた。中高一貫教育校では、この知的な成長が目（ま）のあたりにできた。

1年目	2年目	3年目	4年目
中2（担任）	中3（学年主任） 【中学卒業】【高校入学】	高1（理科担任） 中1（学年主任） 【中学入学】	中2（学年主任）

4年間勤務だったので、6年間しっかり見とどけることはできなかったが、6年間のスタートと高校への接続を経験できたことは貴重なことであった。

学び方と生き方の見通しをもって育成するキャリア教育の実施、高等教育の学びの場を知ることとしての大学見学等様々な取り組みをした。ただ、残念なことは、6年後の進路を見とどけることができなかったことだ。

先日、大学3年生になった卒業生から進路について相談を受けた。

中学校の卒業アルバムを見ながら、どんな進路に進んだか教えてもらった。偏差値的な狭い進路先だけでなく、多様な進路先に驚いた。

彼ら彼女らが小学校6年のとき、6年間のゴールとして「最高の自分を見つけること」を掲げた。従来の狭い学力観ではなく、まさに「生きる力」の育成である。従って、当時の選抜方法もそのゴールを視野に入れたものであった。

さて、この卒業生の6年間の学びの評価のうち、私の印象に残ったことは、

- ・楽しかった
- ・6年間の仲間はすばらしかった（6年間一緒によかった）
- ・多様な個性、進路先があり、他校に対して誇りを持てる

という3点であった。

確かに、入学することが難しい学校、医学、絵画、音楽、体育と多様な進路であった。

私は、大人であり冷静な判断ができる卒業生に聞いた。「6年間の学びではなく、3年・3年の学びだったらどうだったかな？」

卒業生は、「それぞれちがうだろうが、自分は良かったし、自分の性格上、6年間の学びは自分に合っていた。」と答えてくれた。

6年間学んだ生徒の進路と教師としての自分の成果について、自分自身評価できないまま、グレーな気持ちが続いていた。しかし、ひとりの卒業生からであるが、貴重な情報を得ることができ、すっきりした。今後、進路先の成果だけでなく、どのような人間として成長し、活躍するのを見守っていきたい。楽しみである。